

緑のカーテン 絆生む

鹿児島市伊敷台4丁目の伊敷台中央町内会の「緑のカーテン」づくりが今年で5年目を迎え、住民間の交流や絆づくりに一役買っている。

伊敷台中央町内会

5年目、参加世帯拡大

同町内会は2008年、市の緑のカーテンモデル地区に指定され、1年目から84世帯が参加。それ以降も口コミで評判が広がり、今年は全304世帯の3分の1に当たる100世帯が参加した。町内会では、5月に1世帯当たりニガウリの苗3鉢を配布。各世帯が出来栄を競う。



参加世帯のほとんどが5年間継続して取り組む。その一人、益森時枝さん(74)は「緑のカーテンが共通の話題になって、周りの人とよく話すようになった」。

肥料にこだわる川崎大司さん(63)は「作り方を教え合ったり、出来栄について語り合ったりと交流の場が増えて楽しい」と笑う。毎年夏が近づくと、「今年はどのように作ろうか」と自然に話題になるそうだ。

三原美智子会長(51)は「緑のカーテン作りがコミュニケーションの輪を広げるとは思ってもみなかった。団地の孤独死など、高齢者の孤立化が全国的に問題になる中で、より自然にコミュニケーションできる機会として今後も取り組んでいきたい」と話した。

(森山梨莉華子)

ニガウリのカーテンを作った川崎大司さん＝鹿児島市伊敷台4丁目

平成24年9月4日(火) / 南日本新聞・県都版